



Racing Specialities

保存版

# VZ-Ram

## 取扱説明書 SRC

ご使用前に必ず本書をお読みください

本書はヘルメットの使用方法、お手入れ方法、使用上の注意を説明しています。正しくご使用していただくため、最後までよくお読みください。また、本書はいつでも読み返せるよう、大切に保管してください。万一、本書を紛失された場合は、弊社『品質管理課』までお問い合わせください。製品の改良などにより、お客様に予告なく仕様の変更を行う場合がありますのでご了承ください。



PINLOCK®

PRO SHADE  
SYSTEM



本書の各図記号は以下のような意味を表しています



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が高いと思われる事項であることを示しています。



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、ヘルメットを破損させ、安全装備としての機能を低下させる可能性が高いと思われる事項であることを示しています。

本製品は日本国内仕様です。国外では使用しないでください。尚、他国には各々の国で必要となる法律、規格等が定められており、日本国内仕様である本製品は適合していません。

## 安全のため、守っていただきたいこと。

このたびアライヘルメットをお求めくださいましたことを、心より感謝いたします。私共は日本で最も長い歴史を誇るヘルメットメーカーとしてその歴史に恥じぬヘルメットを作り、より多くの方々の安全を守る為に努力しております。しかし、私共が努力して作った製品といえども、いかなる事故にも絶対という訳ではありません。ヘルメットは万一の際に危険の度合を減らす装備の一つであり、安全の一要素にすぎません。ヘルメットの着用に際しては以下の注意事項をよくご理解いただき、常に安全を心がけて運転されますよう、お願いいたします。

▼ヘルメットを購入する際は、必ず試着を行ってください。

安全のためには、「自分の頭にピッタリ合ったサイズのヘルメットをかぶる」ということがとても大切です。緩すぎたりキツすぎたりしてヘルメットのサイズが自分の頭に合っていないと、ヘルメットは安全性能を十分に発揮することができません。下記の「試着のポイント」を参考にヘルメットをお選びください。



- ヘルメットを購入する際は、必ず試着を行ってください。ヘルメットは同じサイズ表示であっても、オープンフェイスやフルフェイス等タイプが異なると、かぶった際のフィット感も異なります。
- ヘルメットをかぶった状態で頭を前後左右に振っても、頭の動きに対してヘルメットがワンテンポ遅れずにしっかりと追従すること。
- ウレタン素材等の進歩によって、「少しきつめを選んでおけば、使っているうちに馴染んで緩くなる！」といった事は、最近ではあまり期待できません。サイズ選びの際にはヘルメットをかぶった際の内装のフィット感が全体的に均一であり、尚且つ頭部に部分的な締め付けや圧迫などを感じないサイズのヘルメットをお選びください。



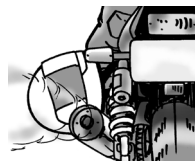
### ▼あご紐は正しく締めてください。

転倒した際、頭に受ける衝撃の方向は予想することができません。ある時はヘルメットを脱がすような方向から衝撃が来るかもしれません。そんな時、ヘルメットを頭にしっかりと固定しておくのがあご紐の役目です。ヘルメットをかぶっていても、あご紐を正しく締めていなければヘルメットをかぶらない状態と同じです。ヘルメットをかぶる時には必ずあご紐を正しく締めてください。



### ▼ヘルメットの持ち運びには注意！

ヘルメットホルダーにヘルメットを吊り下げたまま走行すると、ヘルメットと車体との干渉により車体可動部の動きを妨げるおそれがあります。そして、ヘルメット本体や車体とヘルメットを繋いでいるあご紐も傷つけるおそれがあります。また、ヘルメットを持ち運ぶためにヘルメットの窓に腕を通したり、あご紐で腕に吊り下げて運転するのもオートバイの操縦に支障をきたしますので絶対におやめください。



### ▼あご紐（ストラップ）のコンディションにご注意ください。

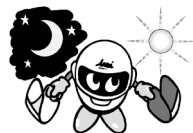
あご紐は安全の要です。短くて硬いアゴ髭と長時間接触したり、路面等の硬いものと擦れたり、ライディングジャケット等の襟部分の面ファスナーなどに触れると繊維が徐々に千切れてあご紐に毛羽立ちが生じます。あご紐に毛羽立ちやほつれを発見した場合は、あご紐の修理を弊社品質管理課までご依頼ください。※あご紐の修理代金とヘルメットの往復送料は、お客様のご負担となります。



あご紐が毛羽立ったままでヘルメットを使い続けると、ほつれが進行してあご紐が次第につれて（ひきつって）変形してしまいます。変形したあご紐では装着時の締め付けが不十分だったり、衝撃を受けた際にDリングから抜けるおそれがあり大変危険です。

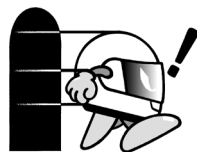
▼走行条件に合ったシールドをお選びください。※シールドを装備したヘルメットに限ります。

周りが暗くなってきたにも関わらずスモークシールドのままで走行すると、視界が悪化し状況判断し難くなり大変危険です。ツーリングなどで夜間も走行する場合は、光線透過率が70%以上のアライヘルメット純正クリアーシールドに交換してください。尚、外したシールドは傷を付けないようにご注意ください。



▼走行中の急激な環境変化に注意する。※シールドを装備したヘルメットに限ります。

走行時におけるヘルメット内の温度は、ほぼ一定ですが、ライダーは高速度で移動しているため周辺環境（気温・湿度）は常に変化しています。そのため、峠道などの高低差が生じる道路、または突然の雨やトンネルに入った（出た）瞬間、ヘルメット内部と周辺環境の急激な温度変化により、シールド面（外面か内面かは状況によって変わります）に結露（露付き現象）が発生し、急激に曇ってしまう場合があります。このような状況が予想される時にはシールドを微開にしておき、予めシールド内外の温度差を少なくしたり、安全を確保できる走行スピードに調整するなどの注意が必要です。



▼ヘルメットを塗装する際の注意。

ヘルメットを塗装する際は、以下の点にご注意ください。まず、ヘルメットの表面を中性タイプの食器洗い洗剤で洗い、汚れや油分を落としてから800番程度のサンドペーパーで表面を研磨します。ヘルメット内の衝撃吸収ライナ（発泡スチロール製）は塗料に含まれる溶剤によって溶けてしまい衝撃吸収性が失われてしまいますので、塗料が染み込まないように入念にマスキングしてください。ヘリ部分、ホック類、ネジ孔なども同様にマスキングして、ご使用になる塗料の説明書にしたがって塗装を行ってください。但し、乾燥時に50℃以上の熱を必要とする塗料はご使用できませんのでご注意ください。ホルダーやダクト等の樹脂成型パーツの塗装は、必ずポリカーボネート樹脂用の塗料と溶剤をご使用ください。尚、ヘルメットを構成する部品（衝撃吸収ライナや窓ゴム・縁ゴム等）をバラバラに分解して塗装するのは、絶対にお止めください。



### ▼ヘルメットの高温乾燥は厳禁！

ヘルメットを50℃以上の熱に曝すと素材に変形や変質が生じ、ヘルメットの性能を大きく損ないます。ヘルメット全体、または取り外した内装を、業務用乾燥機・ドライヤー・ストーブ・各種ヒーター類・電子レンジ・オーブン・各種バーナー、トーチ類・直火などで絶対に乾かさないでください。また、衣類乾燥機、洗濯乾燥機による内装の乾燥も、その乾燥温度が50℃以上に達する場合は使用をお止めください。



### ▼ヘルメットの改造は厳禁！

ヘルメットの基本構造は頭を何らかの物質と空間で覆い、頭を保護するものです。安全性を高める為には、より多くの物質、空間が必要となり、したがって安全性の代償として僅かとはいえ視界・聴力・運動性が損なわれる可能性があります。例えば、ヘルメットをかぶると音が聞こえにくく感じる例があげられます。これは周波数の高い音がクッション材などによって吸収されることによって音質が変化するためで、通常の会話などの周波数音はほとんど吸収されません。このことをご理解いただければ、ご支障なく運転ができます。また、帽体に聴音孔をあけると衝撃吸収性能が低下するだけでなく、かえって風切音が大きくなり聴力を妨げる原因となります。メーカーに相談せず帽体や発泡スチロールに孔をあけたり、削ったりするのはおやめください。



### ▼衝撃を受けたヘルメットは再使用できません！

ヘルメットは衝撃を受けると、その一部が壊れることで衝撃を吸収して頭を守るように作られています。したがって、かぶった状態で衝撃を受けたヘルメットは、例え表面に大きなキズ等が見られなくても衝撃吸収のプロセスによって内部構造が破壊されています。一度でも大きな衝撃を受けたヘルメットは継続して使用せず、弊社品質管理課まで事故の状況説明と共にヘルメットをお送り頂き、再使用可能かどうか検査を依頼されるか、新しいヘルメットをご購入ください。



※ヘルメットの検査自体は無料です。ヘルメットの往復送料のみ、お客様のご負担となります。

### ▼走行時のヘルメット操作は危険！

オートバイで走行中、シャッターの開閉等の操作を行うにはハンドルから一時的に手を離さなければならず、その結果オートバイの運転に支障をきたすおそれがあります。ヘルメットの操作は停車時に行ってください。但し、シールドやサンバイザーの開閉は視界の確保などに必要なもので、この限りではありません。



### ▼ヘルメットをミラーに引っ掛けしないで！

バックミラーにヘルメットをかけると、ミラーの角でシールドが傷付いたり、衝撃吸収ライナが変形するおそれがあり、変形したライナは衝撃吸収能力に少なからず影響を及ぼします。また、ヘルメットの上に腰掛けるのも厳禁です。ヘルメットの縁ゴムを傷付け、それをきっかけに縁ゴムが剥がれたり、削れたりしてヘルメット裾部が露出するおそれがあります。帽体の裾部は硬いので、それを保護している縁ゴムが無いと転倒時に首や肩など身体を傷つけるおそれがあります。



### ▼長期間ご使用の場合は樹脂成型パーツの点検及び交換を行ってください。

ヘルメットに使用されている樹脂成型パーツ類は、日々の使用による可動部の磨耗や紫外線による素材劣化が生じます。不意の破損を防ぐために定期的な点検を行ってください。特にシールドベースやそれを取り付けるためのネジ、ホルダーやワッシャー類などはとても重要なパーツですので、亀裂や磨耗、破損を発見した場合は、パーツの交換を早急に行なってください。



### ▼ヘルメットの性能は永久不変ではありません。

ヘルメットは日々の着用に伴い、ヘルメットを構成する素材の老朽、劣化などの経時変化によって、新品時と同じ性能を維持できなくなる場合があります。現在ご使用中のヘルメットに特に不具合が見られなくても、SGマーク※の有効期限である三年を目安に、そのヘルメットの着用を開始した日から数えて三年以上経過したヘルメットは買い替えをお勧めします。※（一財）製品安全協会のSGマーク被害者救済制度



### ▼ヘルメットを不安定な場所に置かないで！

オートバイのタンクやシート上など平面でない滑りやすい場所にヘルメットを置くと、ヘルメットが落下するおそれがあります。ヘルメットは中身が空っぽの状態でも1m以下からの落下であれば、性能に大きくは影響しませんが※、落下時にヘルメットの部品が破損した場合、そのまま使用すると走行中に部品が外れたりするおそれがあります。部品が破損した時には、速やかに新しい部品と交換してください。

※例えば1m以下からの落下であっても、同一箇所に複数回衝撃が加わった場合はヘルメットの性能が損なわれます。



### ▼ペットの近くにヘルメットを置かないで！

ペットの活動範囲にヘルメットを置かないようにご注意ください。ペットがヘルメットをおもちゃにして、噛んだり、転がしたり、引きずり回したりする場合があります。また、<sup>げっしるい</sup>齧歯類の場合には内装生地やウレタン製のクッション材を巣作り（寝床）の材料にするために齧り取ったりしてヘルメットを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットから外れた部品などをペットが誤飲するおそれもありますので十分ご注意ください。



### ▼ヘルメットの製造年月日について

ヘルメット内面に貼られる検査ラベルに最終検査を行った日付が、そのヘルメットの製造年月日としてスタンプされています。尚、ヘルメットに付属の印刷物（シールドラベルや取扱説明書など）に表示される数値等は印刷物の管理コードであり、ヘルメットの製造年月日とは関係ありません。



## ▼偏光レンズを使用したサングラス・保護メガネ等のご使用について

シールドは、ポリカーボネート樹脂を原料とする「金型射出成形」と「平板の熱曲げ」の二種類の製造方法があります。しかし、いずれの方法においても成形時に少なからず残留応力が発生します。その残留応力によるシールドの分子量の変化が偏光レンズによって虹色の模様となり、シールド越しの風景が見え辛くなります。この事をご理解いただき、偏光レンズの使用はお控えください。

## ▼ベンチレーションダクトについて

●ベンチレーションダクトは両面テープやネジでヘルメットに固定されています。無理に外そうとすると、ヘルメット本体やベンチレーションダクトが破損するおそれがあります。

●トップケース等ケース類にヘルメットを収納する際は、ケース内部（特に天井部）とヘルメットとの間に隙間があるかどうか確認を行ってください。この隙間が十分確保されていない場合、ケースの蓋を強く閉じた際、ヘルメットに打撃が加わりベンチレーションダクトを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットを取り出すきっかけとしてダクトの開口部などに指をかけないでください。

●暑い日に、ケース類にヘルメットを長時間収納すると、内部温度の上昇によってベンチレーションダクトを固定する両面テープの接着力が低下して、ズレや剥がれが生じるおそれがあります。また、ヘルメットの収納部がマフラーに近い場合も内部温度の上昇によって同様のトラブルが生じるおそれがあります。

## ▼つや消し塗装のヘルメットについて

●つや消し塗装のヘルメットのお手入れに、アルコール・ガソリン・ベンジン・灯油・シンナー系の溶剤等は絶対に使用しないでください。付着した汚れは水やぬるま湯を少量含ませた軟らかい布で拭き取ってください。この時に表面を強くこすると部分的なつやが生じてしまいますのでご注意ください。もし汚れが落ちない場合は、中性タイプの食器洗い洗剤を水で薄めてご使用ください。

●つや消し塗装面を消しゴムで強くこすると、塗装面に部分的なつやが生じますので使用しないでください。また、コンパウンド（研磨剤）や、コンパウンドを含むワックス等でヘルメット表面を磨くと、塗装面に部分的なつやが生じますので使用しないでください。

●つや消し塗装の性質上、各種塗料・インク・ボールペン・油性 / 水性マーカーなどが付着した場合、きれいに落とす事ができません。付着させないように十分ご注意ください。

## ▼ヘルメットのお手入れにご使用になる洗剤について

頑固な油污れ用の【アルカリ性洗剤・弱アルカリ性洗剤】、バス・トイレ用の【酸性洗剤】はヘルメットのお手入れに絶対に使用しないでください。使用した場合にはヘルメットを破損して、その機能を損なうおそれがあります。

pH (水素イオン指数)	3以下	3以上～6未満	6以上～8未満	8以上～11未満	11以上
液性	酸性	弱酸性	中性	弱アルカリ性	アルカリ性
ヘルメットへの使用	×	×	○	×	×

ヘルメットに、中性以外の洗剤はご使用頂けません。



ヘルメットのシールドやベンチレーションダクト、ホルダー等の樹脂成形部品のお手入れには【中性タイプの食器洗い洗剤】を、ヘルメットの内装のお手入れには【中性タイプの洗濯洗剤】を推奨しています。しかし、たとえ液性が中性であっても、使用する状況や条件によって樹脂成形部品を破損させるおそれがありますので、十分ご注意ください。



樹脂成形部品に中性洗剤の原液を直接掛けたり、洗剤を溶かした水の中に長時間漬け込んだり、洗浄後の洗剤成分の除去が不十分だった場合、洗剤成分が樹脂成形部品に浸透して亀裂や割れを生じさせる原因となります。尚、中性洗剤をご使用後は、洗剤成分を残さないように流水でよく洗い流してください。

# VZ - Ramシリーズの特長

## ①VAS-Zシールドシステム

従来型のシールドでは、一つの回転軸によってシールドの開閉を行っていましたが、VZシリーズに採用された、「かわす性能」を高めるためのVAS-Zでは、回転軸がヘルメット上に仮想軸として存在しています。その仮想軸とシールド取り付け部を軸とするダブルピボットの組み合わせでシールドの開閉を行っています。

## ②VAS-Zシールドロック

より確実なシールドロックのために開発されたVAS-Zロックは、風などの外圧によるシールドの不意の開放を防ぎます。

## ③ICダクト5

外気をヘルメット内部へ導きます。そして、ダクト開口部を塞ぐことで風切り音を軽減します。

## ④ディフューザー・タイプ12

吸気用のDFIインテークを備えたディフューザー・タイプ12は、ワンタッチ操作で片側2ヶ所の排気口を同時に開閉できます。そして、ヘルメット内部にこもる熱気を排出します。

## ⑤VZエアロフィン（固定式）

ディフューザー後部に取り付けられたエアロフィンによってヘルメット上を流れる airflow をコントロールし、ヘルメット後方に生じる乱 airflow を抑えて高速走行時のヘルメットの挙動を安定させます。

## ⑥サイドダクト7

ヘルメット内に停滞する空気を、ヘルメットの左右に設けられたサイドダクト7へ導いて排出します。

## ⑦ブローベンチレーション

ブローシャッターから取り入れられた外気は、インナーダクトによってヘルメット内部へと導かれます。

## ⑧EPフルシステム内装

通常、生地に付着した汗はアルカリ性となり、匂いの原因となる雑菌が生じます。当ヘルメットの内装には、付着した汗をアルカリ性から肌に優しい弱酸性に変化させる【pHコントロール：抗菌消臭高機能生地】が採用されています。

## ⑨VZスピーカーベース

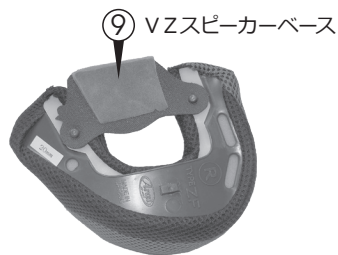
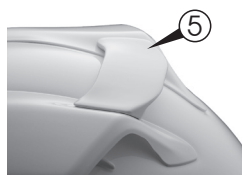
VZスピーカーベースは、耳の部分のライナーの段差を埋め、フラットにしてスピーカーの取り付けを容易にします。

※VZスピーカーベースは、予めVZ EPイヤークップに取り付けられています。VZスピーカーベースの着脱は自由に行えますので、当取扱説明書の29ページをご参照ください。

## ⑩VAS-Zプロシェードシステム（一部オプション）

可動式のVAS-Z PSサンバイザーは、上げるとバイザー（庇）として機能し、下げるとスモークシールドとして機能します。

※VZ-Ramにつきましては、プロシェードシステムは別売りオプションとなります。ご利用の際は、必要なプロシェード関連パーツがセットになった「VAS-Zプロシェードキット」をお買い求めください。

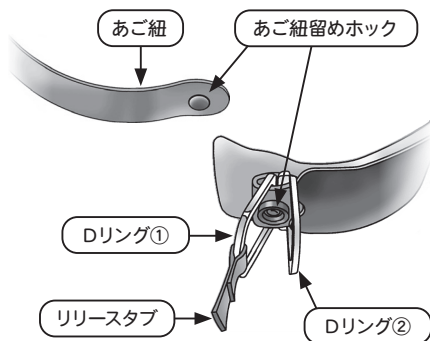


目次	ページ
A あご紐の正しい締め方	12 ~ 13
B VAS-Zシールドの開閉	14
C ブローシャッターの操作	15
D ベンチレーションの操作	16
E ディフューザーの操作	17
F VAS-Zシールドの外し方	20 ~ 21
G シールドベースの着脱	21
H シールドとアームの分離合体	22 ~ 23
I VAS-Zシールドの付け方	24 ~ 25
J イヤークップの着脱	26 ~ 27
K システム内装の着脱	30 ~ 31
L ストラップカバーの着脱	34 ~ 35
M ヘルメットのサイズ調節	36
N ヘルメットのお手入れ	38 ~ 39
O オプションパーツリスト	40 ~ 41
P プロシェードシステムについて	42 ~ 46
Q お勧めするオプションパーツ ピンロック120のご案内	47 ~ 50
巻末付録	51

## A あご紐の正しい締め方

あご紐を正しく締めていない場合、万一の際にヘルメットの安全装備としての機能が十分に発揮できません。当ページを良くお読みになり、あご紐を正しくご理解いただきますよう、お願いいたします。

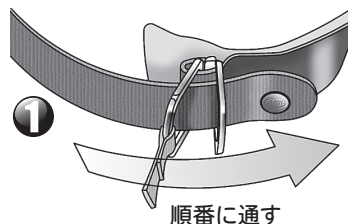
あご紐の各部名称



### ①二つのDリングに通す

あご紐を、Dリング①→Dリング②の順番に中に通します。

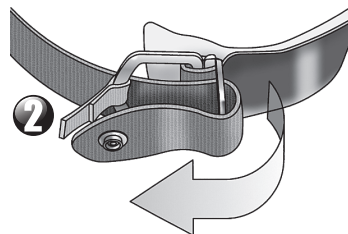
※あご紐を通す際、途中でねじれさせないようにご注意ください。



順番に通す

### ②あご紐を180°折り返す

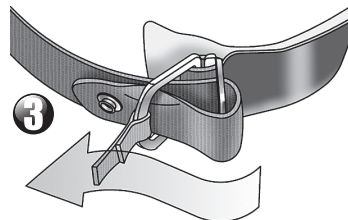
Dリングにあご紐を通したら、あご紐の先端を軽く引っぱり、弛みを取り除きながら180°折り返します。



180° 折り返す

### ③Dリング①に再び通す

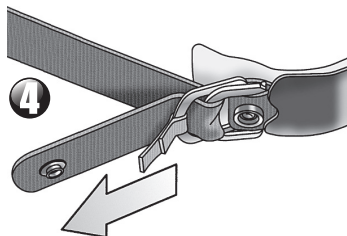
折り返したあご紐の先端を、Dリング①に通します。



Dリング①に通す



あご紐を正しく締めていない場合、転倒時の衝撃でヘルメットが脱落し、死亡または重傷を負う危険性があります。

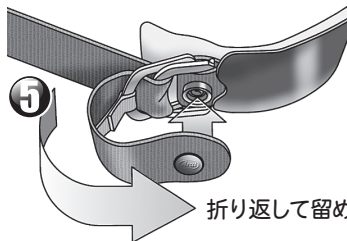


#### ④あご紐を引っばる

あご紐の先端部を持ち矢印の方向に引っばると、あご紐が締まります。

あご下とあご紐の間に指を1～2本差し入れて襟元を直すように左右に動かしても、指の背が常にあごに触れる位が適切な締め具合です。

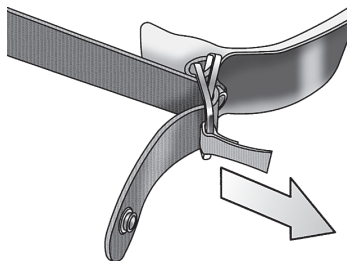
※人差し指と中指の一番太いところが直径2cm未満の方は指二本で、それ以上の方は、人差し指一本で確認しましょう。



#### ⑤余った先端部を留める

【あご紐留めホック】で余ったあご紐の先端を留めることで、あご紐の風によるバタ付きや、襟元の面ファスナーへのあご紐の付着を防止できます。

乗車服や雨合羽などの襟元の面ファスナーにあご紐が付着すると、後方確認時に首の動きを妨げるおそれがあります。また、面ファスナーにあご紐が付着すると毛羽立ちの原因になります。



折り返して留める



Dリングに通さず、あご紐留めホックで留めただけの状態であご紐を持たないでください。  
あご紐留めホックが外れてヘルメットが落下し、破損させるおそれがあります。



#### リリースタブの使い方

【あご紐留めホック】を外し、リリースタブを摘んで矢印の方向に引っばると、あご紐を簡単に緩めることができます。

## B VAS-Zシールドの開閉

シールドロックを解除してシールドを開くには  
シールドを開くには、シールドロックの解除を行う必要があります。**シールド左下の内側に親指をかけ、1cmほど外側に広げながらシールドを上げると、シールドロックの解除とシールドオープンが同時に行えます。**



シールドロック解除の動作を行わずにシールドを無理に開くと、シールドロックパーツが破損するおそれがあります。

シールドを閉じてロックさせるには  
シールドの左下を掴んで止まる位置まで下ろすと、シールドはロックされます。シールドを外側に広げる動作（ロック解除）を行わずにシールドを上げてみて、もしシールドが開くようであれば再度シールドを下ろして確実にロックさせます。



シールドロックが不完全な状態で走行すると、風などの外圧によってシールドが不意に開いてしまい危険です。

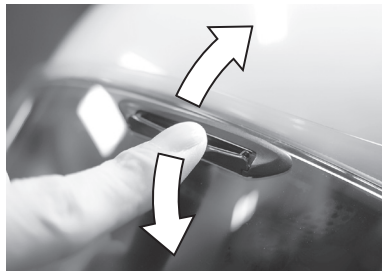
## C ブローシャッターの操作

ブローシャッターはシールドの種類により2つの方式が存在します。一つは、VAS-Zブローシールドに採用されている【チルト方式】。もう一つは、VAS-Z PSシールド（プロシールド用）に採用されている【スライド方式】です。

### VAS-Zブローシールドの場合【チルト方式】

ブローシャッター中央の膨らみに指をかけて引き下げるとシャッターが開き、外気がヘルメット内に流入します。膨らみを押し上げるとシャッターが閉じ、外気流入は止まります。

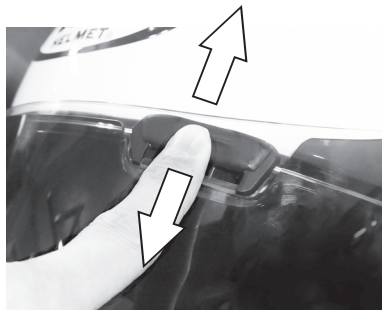
雨の日はシャッターを閉じてご使用ください。尚、水や空気を完全には遮断できません。予めご了承ください。



### VAS-Z PSシールドの場合【スライド方式】

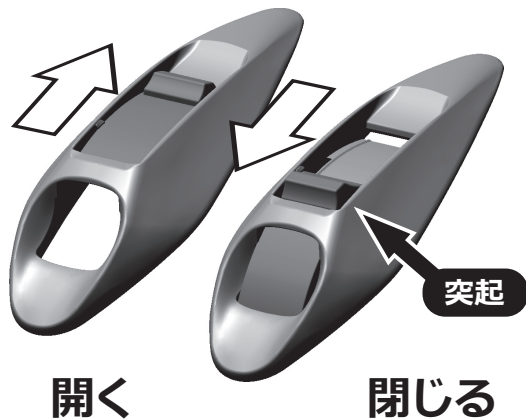
ブローシャッターの表面の【シャッターパネル】を上スライドさせるとシャッターが開き、外気がヘルメット内に流入します。パネルを下にスライドさせるとシャッターが閉じ、外気流入は止まります。

雨の日はシャッターを閉じてご使用ください。尚、水や空気を完全には遮断できません。予めご了承ください。



## D ベンチレーションの操作

ICダクト5のインテークシャッターの突起を後方に（ヘルメットの前後に準じます）スライドさせるとシャッターが開き、外気がヘルメット内に流入します。突起を前方にスライドさせるとシャッターが閉じ、外気流入は止まります。



雨の日はシャッターを閉じてご使用ください。尚、水や空気を完全には遮断できません。予めご了承ください。

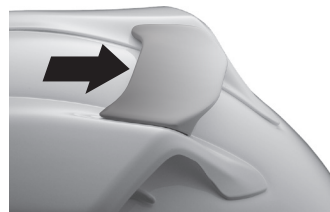
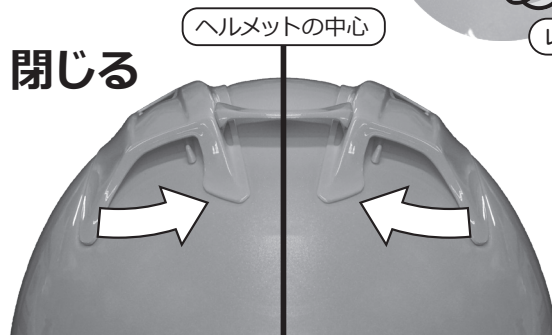
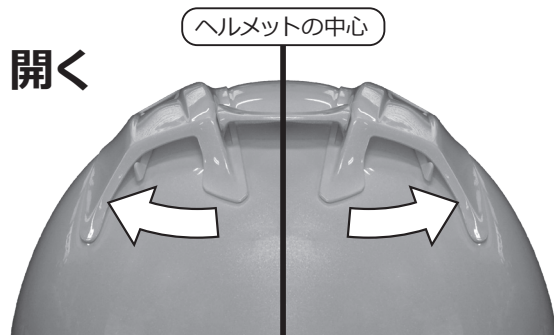


ディフューザーシステム・タイプ12の、前方吸気口がDFIインテークです。スライドスイッチの突起を後方に（ヘルメットの前後に準じます）スライドさせるとシャッターが開き、外気がヘルメット内に流入します。突起を前方にスライドさせるとシャッターが閉じ、外気流入は止まります。



## E ディフューザーの操作

ディフューザーのシャッター操作は、排気口から覗く【レバー】を操作して行います。レバーをそれぞれ、ヘルメットの中心から遠ざけるとシャッターが開き、ヘルメット内空気の排出が行われます。レバーをそれぞれヘルメットの中心に寄せるとシャッターが閉じて、空気の排出はストップします。



雨の日はシャッターを閉じてご使用ください。尚、水や空気を完全には遮断できません。予めご了承ください。



ヘルメットを持つときにエアロフィンを掴まないでください。エアロフィンが外れ、ヘルメットを落下させるおそれがあります。



*Racing Specialities*

## VASシールドの仕組み

ZRタイプシールドでは、一つの回転軸によってシールドの開閉を行っていましたが、VZシリーズに採用された、「かわす性能」を高めるためのVAS-Zでは、回転軸がヘルメット上に仮想軸として存在しています。その仮想軸とシールド取り付け部を軸とするダブルピボットの組み合わせでシールドの開閉を行っています。

Shield Type  
**SAZR**



Shield System  
**VAS-Z**



衝撃をかわすために大切な、丸くてなめらかな曲率ゾーンを拡大することで、Araiが提唱する安全性のこだわりをカタチにしました。それが「VAS」です。



## F VAS-Zシールドの外し方

シールドの着脱、アームの分離合体を行う時は必ず手が乾いた状態で行ってください。油分や水で手が湿った状態で操作すると手を滑らせ、誤った操作や思わぬケガをしてしまうおそれがあります。

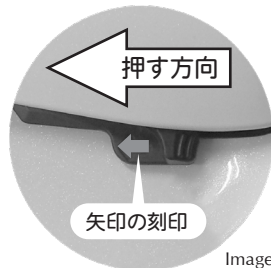
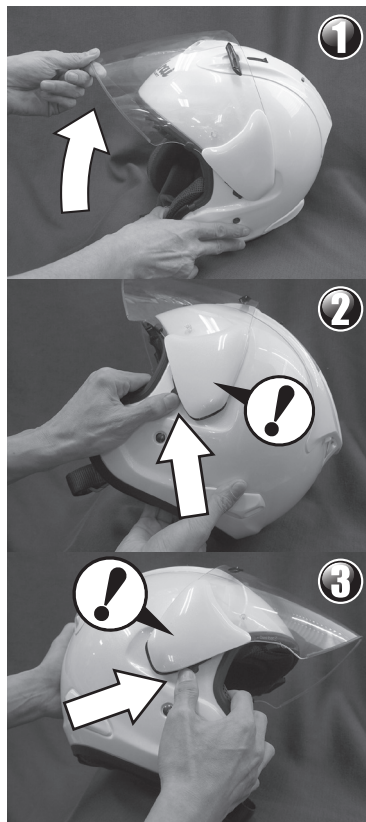


### シールドの外し方

①シールドを全開位置まで上げると、アームの下から【リリースレバー】が現れます。

②リリースレバーを親指の腹で矢印刻印の示す方向へ押すと、カチッ!と音がします。この音はアーム内部のロックが外れた音で、アームが取り外し可能な状態となります。

③ヘルメットを持ち替え、反対側のリリースレバーも、カチッと音がする位置まで押してください。こちらもアーム内部のロックが外れてアームが取り外し可能となります。左右ともロックが外れると、勢いでシールドが外れる場合がありますのでご注意ください。



Image

レバー操作行う際、反対側のアームを手で支えておけば落下防止となり、安心して作業が行なえます。



④左右のレバーの操作を終えたら、シールドを落とさないようにしっかりと持ってヘルメットから分離させます。



## G シールドベースの着脱

シールドベース着脱の際は、刃幅**5.5～6mm**のマイナスドライバーをご用意ください。

### シールドベースの外し方

シールドベースを固定している片側二本ずつのネジを、マイナスドライバーで左に回して取り外します。



### シールドベースの付け方

シールドベースの左右を刻印で確認し、予め付けておいた目印に合致させてヘルメットに取り付けます。

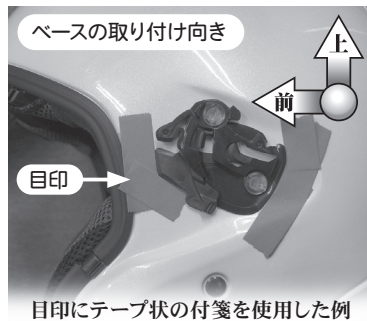
ネジは初めに手で右に回し、確実にネジ穴に入っていることを確認してからマイナスドライバーで軽く回し、止まった位置から**四分の一回転未満**が締める目安です。ネジの締め忘れや締めすぎには十分ご注意ください。取り付けが完了したら目印は除去してください。



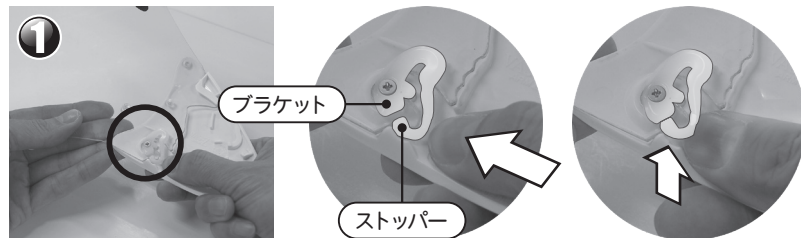
L : 左 / R : 右

シールドベースは、シールドへの密着を高めるための調整が施されています。シールドベースを外すとその調節がリセットされてしまいますので、外す際は予め目印を付けておいてください。

※粘着力の弱いテープ類や、容易に消せる水性ペンをご利用ください。尚、つや消し塗装のヘルメットには水性ペンは使わずに、テープ類をご使用ください。



## H シールドとアームの分離合体



ストッパーが持ち上がる

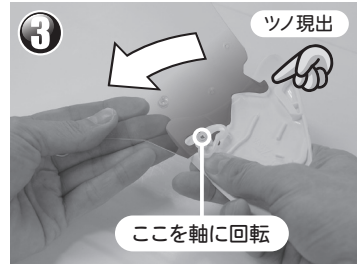
### シールドとアームの分離方法

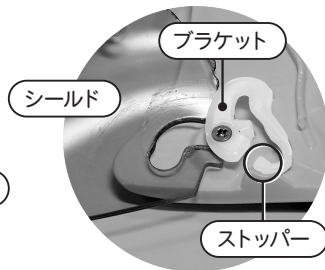
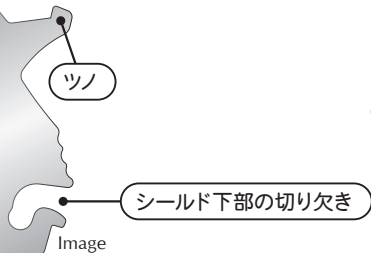
①シールドとアームの分離と合体は、ヘルメットから一旦アームを取り外してから行います。まず、ストッパーの解除を行います。ブラケットを手前に向けてアームをしっかりと掴みます。そして、アームを掴んだ手の親指の指先をブラケットのストッパーの下に差し入れます。すると、爪でストッパーが持ち上がって解除されます。

②指先を差し入れたまま、シールドを矢印の方向に3mmほどスライドさせてください。すると、アームに刺さっていたシールド上部のツノが抜けます。

③ブラケットを軸にして、シールドを下向きに回転させます。すると、シールド上部のツノがアームの溝から出てきます。

④シールド上部のツノが現れたら、シールドを前方へ抜き取ります。反対側も同じ手順で取り外しを行ってください。





## シールドとアームの合体方法

①シールド下部の切り欠きを、ブラケット下にある軸（金属製ネジの下）に差し入れ、止まる位置までシールドを矢印の方向に押します。

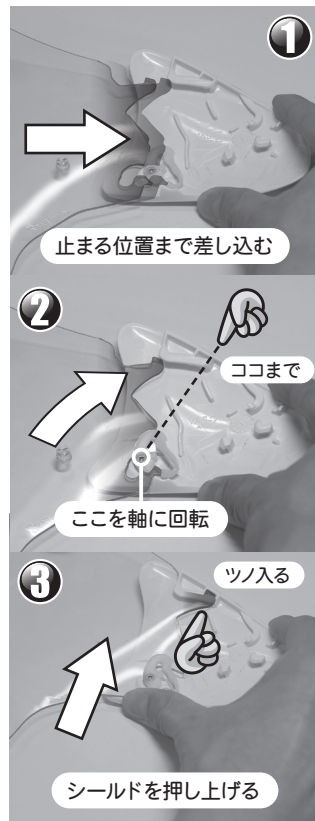
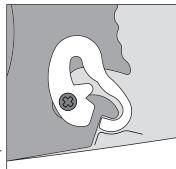
②ブラケット下の軸にシールドがしっかりと入り込んだら、シールドを矢印の方向に回転させ、シールド上部のツノをアームの溝の行き止まりまで移動させます。

③アームをしっかりと保持して、親指の腹でシールドを止まる位置まで上向きに押してシールド上部のツノをアームのポケットに入れます。最後に、ストッパーがシールドに確実に掛かっていることを確認してください。



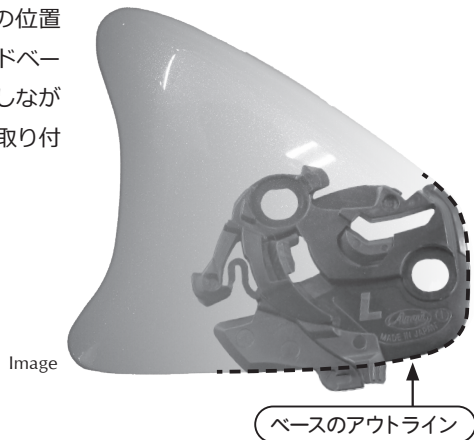
ストッパーが外れている場合、アームからシールドが外れるおそれがあります。

ストッパーが掛かった状態 →



## I VAS-Zシールドの付け方

シールドを保持するアームをシールドベースに取り付けるには、アームの位置と角度をシールドベースと合致させる必要があります。しかし、シールドベースはアームの下に隠れ、アームとベースの接合ポイントを直接目で確認しながら取り付けることができません。そこで、シールドベースにはアームを取り付ける目安となる【ベースのアウトライン】が設けられています。



### シールドの付け方

①まず最初に、シールドベースのアウトラインに対し、アーム下側と後方の形状が合致するようにアームの位置を調整します。

作業中にヘルメットやシールド付きのアームを落とさないように、ご注意ください。



②ピッタリと重なった状態でシールドベース側にアームを押し付けると、アームがシールドベースにパチン!と入り込みます。

アーム裏面の二つのフックが、両方共シールドベース側のガイドレールに入るようにアーム写真の★の位置付近をバランス良く押してください。

ヘルメットを反対側に持ち替えて、反対側のアームも同様に取り付けます。

アームがシールドベースに確実に入り込んでいることを確認してください。



L : 左側



アームの★の辺りを押し込むとベースに入りやすいです。



③最後にシールドを数回上下に動かし、動作確認を行ってください。もし、アームがシールドベースから外れてしまった場合は、①に戻って再度取り付けを行ってください。



アームの取り付けが不完全だと、シールドを上下させた際にヘルメットから外れてしまいます。

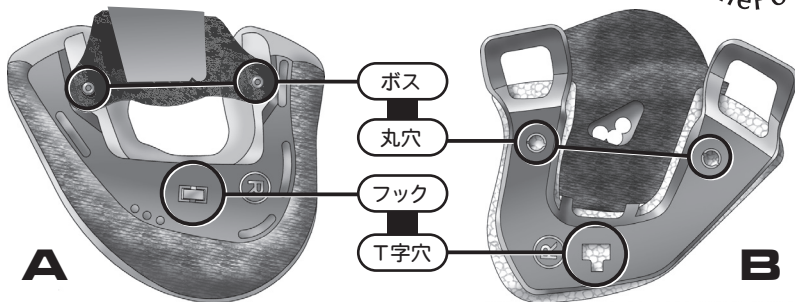


## J イヤーカップの着脱

【A】は、イヤーカップ（右側）を裏から見た図です。イヤーカップは上部の二つのボスと、下部のフックでベースに取り付けられています。

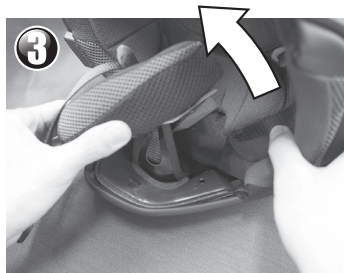
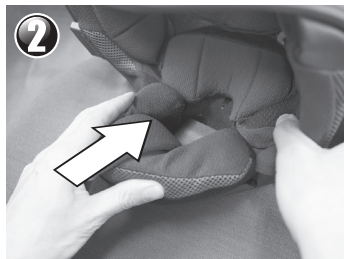
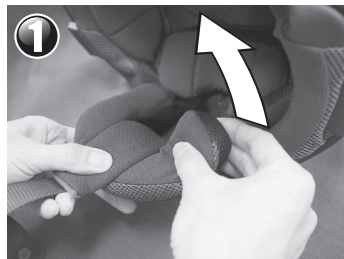
【B】は、ヘルメット側のベースの図です。ベースには上部に二カ所の穴と、下部にT字型の穴があります。

イヤーカップとベースには左右を見分ける刻印があり、同じ刻印のものがペアとなります。



### イヤーカップの外し方

- ①まず初めに、上部2ヶ所のボスを先に外します。イヤーカップ上部の裏に指をかけ、内側に倒すように引っ張るとパチッ!と外すことができます。
- ②左右のボスが外れたら、イヤーカップ全体を上方に（ヘルメットの天井に向けて）スライドさせます。
- ③スライドし終わったらイヤーカップを取り外すことができます。片方を取り外したら、ヘルメットを持ち替えて反対側も同じ手順で取り外してください。



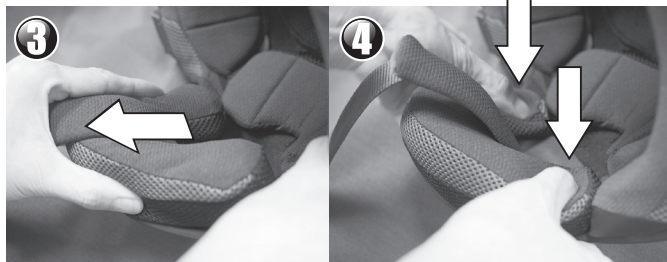
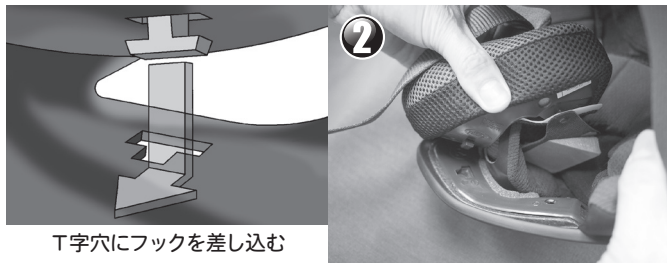
## イヤークップの付け方

①ベースの刻印を確認して、ペアのイヤークップを用意します。そして予め、あご紐をイヤークップの穴に通しておきます。

②最初にカップ裏面の下部のフックをベースのT字穴に差し込みます。

③フックがT字穴に収まったら、イヤークップを押さえながら、全体を下方に（ヘルメットの裾に向けて）止まる位置までスライドさせます。

④スライドが完了したら、イヤークップ上部の左右のボスを、カップの上からパチンと音がするまで押し込んでください。取り付けが完了したら、ヘルメットを持ち替えて反対側も同じ手順で取り付けてください。



### 危険

イヤークップを付けないまま使用しないでください。また、取り付けの際にイヤークップとベースとの間にあご紐を挟み込むと、あご紐の機能が損なわれ危険です。

イヤークップの内部の調節パッドを取ることで、頬部のパッド厚を約5mmずつ緩くすることができます。



## 調節パッドの取り除き方

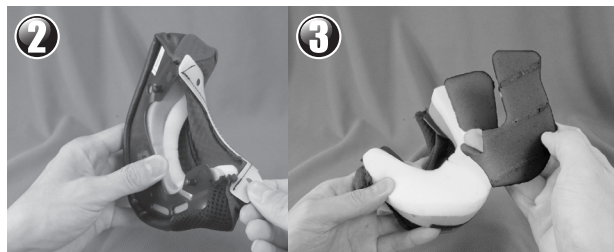
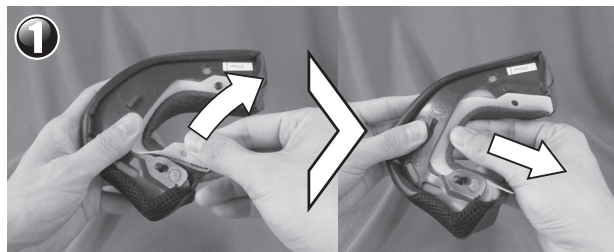
① 予め、左右のイヤークップをヘルメットから外しておきます。イヤークップ裏面のニヶ所のボスにはめ込まれたU字プレートを外し、イヤークップに差し込まれているU字プレートの下の部分も引き抜きます。

② U字プレートを端からクルッと180度ひっくり返すと、写真のようにイヤークップ内部のウレタンパッドが露出します。布全体を慎重にひっくり返してください。

③ パッド上層の調節パッドのみを取り除きます。この調節パッドは、パッド本体に粘着テープで部分的に止められているので、少しずつ丁寧に剥がしてください。ドライヤーがお手元にある場合は、低温設定のドライヤーで少し暖めるときれいに剥がせます。

④ U字プレートをひっくり返して布を被せますが、この時パッドの角を潰さないように注意してください。写真のように角部分の布を内側から指で押し、パッドの角を回復させます。

⑤ U字プレートは、写真のように下から先に差し込み、その後ニヶ所のボスにはめ込みます。最後に、イヤークップ全体の形を整えてヘルメットに取り付けます。

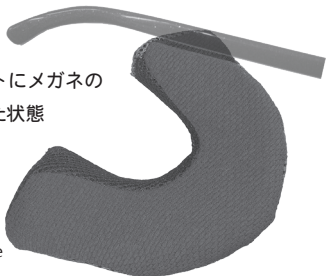


## メガネを着用されているお客様へ

VZ EPイヤークップは、メガネのツルが圧迫されずにスムーズに通せる【メガネスリット】を設定することができます。

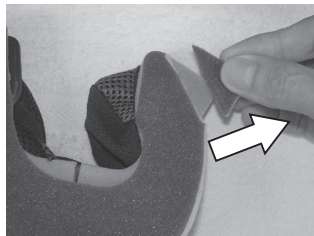
メガネスリットにメガネの  
ツルが収まった状態

Image



### メガネスリットの設定方法

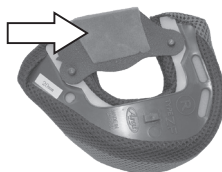
イヤークップのウレタンパッドの前方上部には、点線状に斜めの切れ込みが入っています。一層目（調整パッド）と二層目のウレタンを指で摘んで引っ張ると簡単に千切ることができます。分離後にカバーを掛けて形を整えればメガネスリットの完成です。



※写真のイヤークップは、L・左側です。尚、メガネスリット部分を取り除く際、本体側のパッドを引きちぎってしまわないようにご注意ください。

## VZスピーカーベースについて

【VZスピーカーベース】は耳部分の窪みによる段差を解消して、スピーカーユニットを取り付けやすくするアイテムです。外す場合はピンから抜き取ってください。取り付ける際は、裏面を手前にして左右の穴へピンを差し込みます。



※四角いウレタンが付いた方が裏面です。

VZスピーカーベースには、左右を確認する印が付けられています。

※抜き型の関係上、LRの文字は一部分または上下が逆になっています。



VZスピーカーベースが付いたイヤークップをヘルメットに取り付けた際は、スピーカーベースが耳の窪みにピッタリと収まっているか確認してください。



ピンから抜き取る

ピンにはめ込む

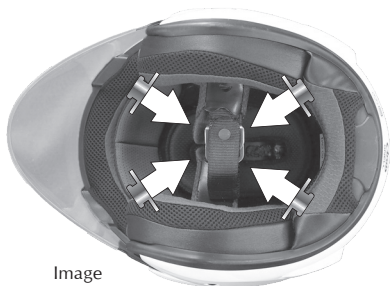


収まり具合を確認!

## K システム内装の着脱

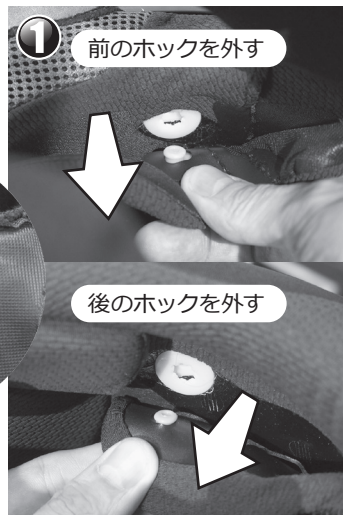
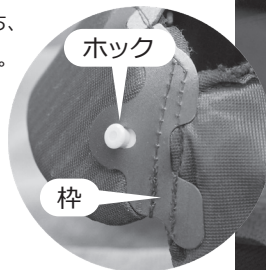
### システム内装の外し方

①内装は四つのホックで衝撃吸収ライナの内面に取り付けられています。それぞれのホックになるべく近い枠（保持プレート）を持ち、ヘルメットの中心に向けて引っばってホックを取り外してください。



Image

それぞれのホックを引っばる向き



②ヘルメット内で半球形に開いているシステム内装を折り畳んで取り出します。



取り出したシステム内装は、折り癖がつかないように広げておいてください。



## システム内装の付け方

①内装の前後の向きに注意して、半球形に開いているシステム内装を折り畳んでヘルメット内に収めます。そして、ヘルメットの内部で元の形に広げます。



②内装のそれぞれのホック位置を合わせて押し込みます。

かぶり心地に影響を及ぼしますので、システム内装取り付け完了後に内装の歪みを必ず整えてください。



ホック及び内装枠の破損防止のため、全てのホックを外してから内装を取り出してください。また、乗車用手袋をヘルメット内に入れると、手首部分の面ファスナーが内装に貼り付いたり、手袋に設けられたプロテクターやエアダクト類がヘルメットの内部を傷める場合がありますのでご注意ください。

## 調節パッドによるシステム内装のサイズ調節

システム内装には、容易に剥がすことができる【調節パッド】が予め取り付けられています。この調節パッドを取り除くことで、システム内装のサイド部を片側で約4mm薄くすることができます。

①システム内装のサイドパッド（側頭部にあたる部分）の外側のポケットをめくります。

②調節パッドは、本体パッドにストライプ状に部分接着されているので丁寧に剥がしてください。ドライヤーがお手元にある場合は、低温設定のドライヤーで少し暖めるときれいに剥がせます。その後ポケットを閉じてシステム内装の形を整え、ヘルメットに取り付けてください。



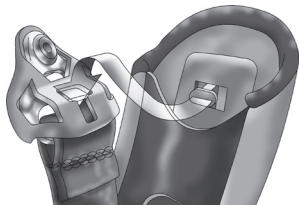
調節パッドを剥がす際、本体側のパッドをちぎってしまわないようにご注意ください。尚、剥がした調節パッドは、お住まいの地域の「軟質ポリウレタンフォーム製品」の分別ルールにしたがって廃棄してください。





*Racing Specialities*

## L ストラップカバーの着脱



ストラップカバーは、カバー根元に設けられた【フック】が、あご紐アンカー部の【ハンガーマウント】のスリットに差し込まれて固定されています。



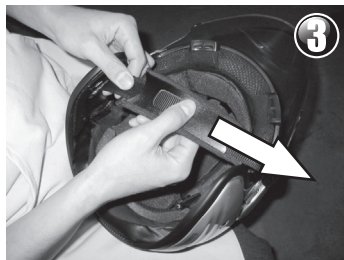
### ストラップカバーの取り外し

システムストラップカバーの着脱は、イヤークップを外してから行います。

①ストラップカバー根元部分に縫い付けられたフックをしっかりと掴みます。

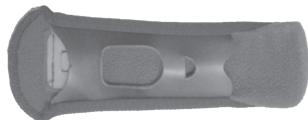
②フックを上(ヘルメットの天井に向けて)スライドさせて、ハンガーマウントから抜き取ります。

③フックが外れたら、ストラップカバーをあご紐から抜き取ります。

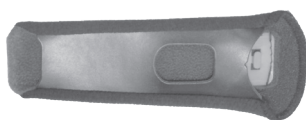


### ストラップカバーの取り付け準備

まず、ストラップカバーの左右表裏の確認を行います。カバーの表裏は、かぶった際に肌に接触する方が【表】、合成皮革が縫い付けられている方が【裏】になります。



左用ストラップカバー・裏

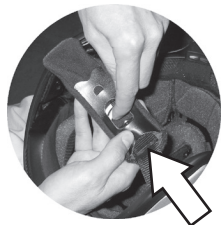


右用ストラップカバー・裏

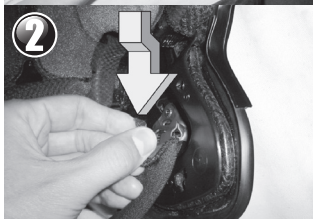
## 左側ストラップカバーの取り付け

①左側（L）のストラップカバー裏面を手前に、あご紐はDリング根元のストラップスナップ（凹）を手前に向け、カバーに通します。

②ストラップカバーのフックを、ストラップアンカーのT字形の穴の上部にはめ込み、下に向けて止まる位置までスライドさせます。



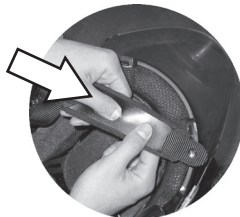
カバーの途中に開いている穴に指を入れてDリングを送り出すと、楽に通すことができます。



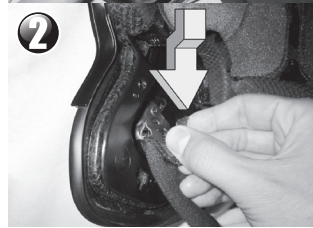
## 右側ストラップカバーの取り付け

①右側（R）のストラップカバー裏面を手前に、あご紐は先端のストラップスナップの飾りボタン（Arai刻印入り）を手前に向けてカバーに通します。

②ストラップカバーのフックを、ストラップアンカーのT字形の穴の上部にはめ込み、下に向けて止まる位置までスライドさせます。



カバーの途中の穴に指を入れ、あご紐を送り出すと、楽に通すことができます。



ストラップカバー未装着の状態、ヘルメットを使用しないでください。また、ストラップカバーの取り付けが不十分だと、ヘルメットをかぶる際に、ストラップカバーが外れるおそれがあります。

## M ヘルメットのサイズ調節

標準設定の内装ではヘルメットがきつい方やゆるい方のため、厚さの異なる内装に替える事で、頭周りや頬部のサイズ調節が行えます。システム内装とイヤークップの厚さの異なるオプションが用意されていますが、交換される場合には、お持ちのヘルメットの標準設定をご参照のうえ、お選びください。

### システム内装による頭回りの調節

【54と55 - 56】【57 - 58と59 - 60未満】にはそれぞれ共通の内装枠が使用されています。この事により表のような頭回りの微調整が行えます。内装枠サイズは数字（Ⅰ～Ⅴ）で表示されています。この枠の数字が異なると取り付けることができませんのでご注意ください。

ヘルメットサイズ (cm)	内装枠サイズ・パッド厚 (mm)		
54	Ⅱ-7	Ⅱ-10	
55 - 56		Ⅱ-7	Ⅱ-10
57 - 58	Ⅲ-7	Ⅲ-10	
59 - 60未満		Ⅲ-7	Ⅲ-10
61 - 62未満		Ⅳ-7	
フィット感	ゆるくなる	標準	きつくなる

### イヤークップによる頬部の調節

イヤークップは内部のウレタンパッドの厚みが異なる以外は全て共通で、基本的にどの厚さのイヤークップも取り付けることができます。しかし、標準設定よりも極端に厚くしたり薄くしたりすると、ヘルメットのかぶり心地を大きく損なう場合があります。

ヘルメットサイズ (cm)	パッドの厚み (mm)		
54	25	30	
55 - 56・57 - 58	20	25	30
59 - 60未満	15	20	25
61 - 62未満		15	20
フィット感	ゆるくなる	標準	きつくなる



*Racing Specialities*

## N ヘルメットのお手入れ

### パーツ類のお手入れ 【中性タイプの食器洗い洗剤を推奨】

アームやベンチレーションダクト等のパーツ類は、洗剤を適量の水で薄め柔らかい布にふくませてパーツ表面の汚れを拭き取ってください。その後、水を含ませた布で洗剤成分をよく取り除き、自然乾燥させてください。



お手入れにアルコールを含むクリーナー類やシンナー系の溶剤、ガソリンなどを使用すると、塗装面や素材が侵されますので絶対に使用しないでください。

### シールドのお手入れ 【中性タイプの食器洗い洗剤を推奨】

シールド表面にオイルやワックス・ガソリンなどが付着すると、たとえ目に見える変化がなくとも素材が侵されてしまいますので、シールドの定期的なクリーニングをお勧めします。クリーニングは水で薄めた中性洗剤でシールド表面の油分などを洗い流し、流水で十分に濯いでから柔らかい布で水分を拭き取ります。



シールドの素材は、酸性やアルカリ性の洗剤を使用したり、アルコール成分を含むクリーナー類で拭いたり、シンナー系溶剤、ガソリンなどが付着した場合や、車窓用の撥水剤などを使用するとシールドの素材が侵されシールドにヒビ割れが生じます。そして、万一の衝撃時に、そこをきっかけに破損するおそれがあります。また、シールドに取り付けられているパーツ類も破損するおそれがあります。



シールドに虫などが付着して硬くなってしまっている場合は、シールドを水に浸けて柔らかくしてから、薄めた中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で虫を拭き取り、洗剤成分を残さず水で洗い流します。尚、中性洗剤を薄めた液中にシールドを長時間浸け込むのは絶対にお止めください。

## ヘルメット本体の洗い方 【中性タイプの洗濯洗剤を推奨】

ヘルメットを丸洗いする時は、ヘルメットからシールドや着脱式内装を取り外してヘルメット全体を中性タイプの洗濯洗剤を少量溶かした水に浸し、ヘルメット表面、あご紐、内装のメッシュを洗い、その後真水で十分に濯いでペーパータオルなどで水分を取り除き、日陰の風通しの良い場所にヘルメットを逆さまに吊して自然乾燥させてください。



ヘルメットを乾燥させる際、50℃以上加熱したりヘルメットを長時間日光にさらし続けると、ヘルメット内の衝撃吸収ライナが熱や太陽光に含まれる紫外線により変形、変質し、衝撃吸収性が失われてしまいますのでご注意ください。

## 着脱式内装のお手入れ 【中性タイプの洗濯洗剤を推奨】

着脱式内装をヘルメットから取り外して手洗いをを行います。システム内装等の枠が付いた内装は、枠を折り曲げたり変形させないように、やさしく洗ってください。そして、洗い終わったら水でよく濯いでペーパータオルなどで水分を取り除き、風通しの良い日陰で自然乾燥させてください。



内装を洗濯機で洗う際は、必ず【洗濯ネット】に入れ、ソフト・弱・手洗いなどの素材に負担をかけないモード選択を行なってください。また、衣類乾燥機や洗濯乾燥機による内装の乾燥につきまちは、その乾燥温度が50℃以上に達する場合はご使用頂けませんのでご注意ください。

※乾燥温度については、衣類乾燥機や洗濯乾燥機に付属している取扱説明書をご確認ください。

## EP内装（pHコントロール：抗菌消臭高機能生地）について

EP内装（pHコントロール：抗菌消臭高機能生地）は、路上に直接ヘルメットを置いたり、内装生地よりも硬い物で強く擦ったりすると、ほつれや毛羽立ちが生じる場合がありますのでご注意ください。尚、内装にほつれや毛羽立ちが生じた際は、新しい内装をお買い求めください。

## ○ オプションパーツリスト

シールド関連パーツ		部品番号
パーツ名	色	
VAS - Zブローシールド ※1	クリアー	031001
	ライトスモーク	031002
	セミスモーク	031003
	スモーク	031004
VAS - Zアーム ※2	グラスホワイ	042180
	グラスブラック	042181
	フラットブラック	042182
	エムジグレイ	042184
	カームレッド	042185
	メタシャイン黒	042183
	スモーク	042186
	ゴースト赤 / 青	042195
	ゴースト緑	042196
	ハラダツアー白	042197
	ハラダツアー黒	042198
	オリエンタル2	042199
VAS - Zピンロック120 (クリアー)		031145
VAS - Zシールドベース		042177
スーパーアドシスネジセット		112511

※1 : VAS-Zブローシールドをヘルメットに取り付けるには、VAS-Zアームが必要です。

※2 : 標準的なアームです。プロシールドシステムには対応していません。

プロシールドシステム関連パーツ		部品番号
パーツ名	アーム色	
VAS - Z プロシールドキット ※3	グラスホワイ	031035
	グラスブラック	031036
	フラットブラック	031037
	スモーク	031038
VAS - Z プロシールドアーム ※4	グラスホワイ	042226
	グラスブラック	042227
	フラットブラック	042228
	メタシャイン黒	042229
	エムジグレイ	042230
	カームレッド	042231
	スモーク	042232
VAS - Z PSノンバイザーシールド (クリアー)		031025
VAS - Z PSピボットカバー		031024
VAS - Z PSサンバイザー (スモーク)		031027

※3 : 必要なプロシールドシステム関連パーツが全てセットとなっています。

※4 : プロシールドシステム対応のアームです。ピボットベースとピボットカバーに干渉しない形状になっています。

ダクト関連パーツ		部品番号
パーツ名	色	
ICダクト5	グラスホワイト	104116
	グラスブラック	104117
	フラットブラック	104119
	エムジグレー	104103
	カームレッド	104104
	クリアー	104114
	スモーク	104120
サイドダクト7	グラスホワイト	105904
	グラスブラック	105905
	フラットブラック	105906
	エムジグレー	105852
	カームレッド	105853
	スモーク	105908

内装関連パーツ		部品番号
パーツ名	サイズ	
VZ EPイヤークップ	15mm	062228
	20mm	062229
	25mm	062230
	30mm	062231
SZ - Ram4X EPシステム内装	Ⅱ-10mm	075783
	Ⅱ-7mm	075784
	Ⅲ-10mm	075787
	Ⅲ-7mm	075788
	Ⅳ-7mm	075792
ZF EPストラップカバー		075519

## ヘルメットの内装の コットン化について

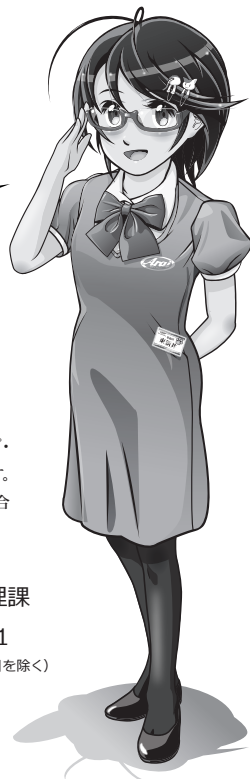
ヘルメットの内装生地には  
化学繊維が使われています  
しかし天然素材以外は  
使用できないお客様のために  
天然コットン100%生地内装の  
製作ご相談もアライヘルメット  
品質管理課で受け付けています

※コットン生地への変更は、イヤークップ・  
システム内装・ストラップカバーに行えます。  
尚、コットン生地は、標準内装生地とは色合  
いが異なりますので予めご了承ください。

アライヘルメット品質管理課

☎048-645-3661

受付時間：午前9時～午後5時（土日、祝日を除く）



## **P** プロシードシステムについて（一部オプション）

### サンバイザーを上げた状態

上げたサンバイザーはオフロード用ヘルメットのバイザー（庇）のような役目を果たし、斜め上からの陽射しをやわらげます。

### サンバイザーを下げた状態

下げたサンバイザーはスモークシールドのような役目を果たし、透過する陽射しをやわらげます。山影やトンネルなど周辺が暗くなる状況が迫った場合、サンバイザーを跳ね上げて速やかにクリアな視界を得ることができます。



夜間や曇り空、トンネル内等の周辺が暗い状況では、サンバイザーを上げてご使用ください。また、雨天時などシールドに付いた水滴などで視界が芳しくない状況では、サンバイザーを上げてご使用ください。サンバイザーを上げた状態で、尚且つシールドも上げて高速走行を行うと、風圧でヘルメットが大きく煽れることが予想されますので、十分ご注意ください。



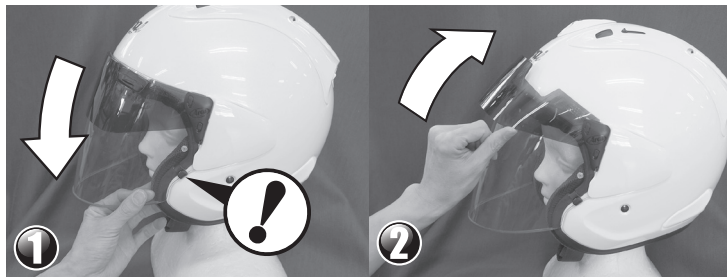
サンバイザーの開閉操作は、必ずシールドを下ろしてロックされた状態で行ってください。ヘルメットを長時間使用しない場合は、サンバイザーを下ろして保管してください。

# サンバイザーの操作方法

## サンバイザーの上げ方

①サンバイザーの開閉を行う際は、シールド側が動かないように、必ずシールドがロックされた状態で行います。

②サンバイザーは下端に指をかけて押し上げます。尚、サンバイザーは中間位置で止めることもできます。



## サンバイザーの下げ方

①サンバイザーの中央を掴み、前方に引き出します。これでサンバイザーのロックは解除されます。

②引き出した状態を保ったまま、サンバイザーを下ろしてください。



サンバイザーを引き出さずに無理に下ろすと、プロシールドシステムのピボットベースを破損させるおそれがあります。



# サンバイザーの着脱方法

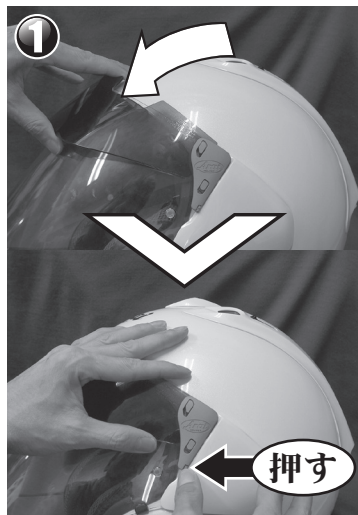
## サンバイザーの外し方

①サンバイザーが上がっている場合は、一旦サンバイザーを全閉位置まで下ろします。  
そして、ピボットカバー下方の【ロック解除ボタン】を押します。

ここでの説明は部品を見やすくするため、  
灰色に着色されているものを使用。



ロック解除ボタン



②ロックボタンを押したまま、ピボットカバー（以下カバー）を矢印の方向にスライドさせます。すると、カバーがピボットベース（以下ベース）から外れます。

外したピボットカバーの紛失に  
ご注意ください。



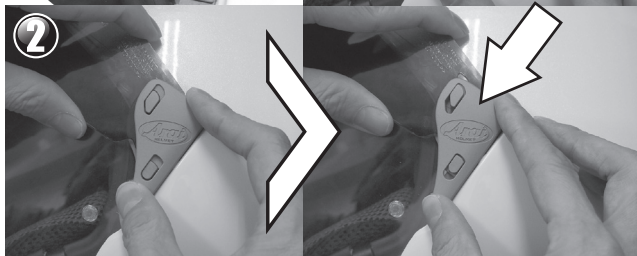
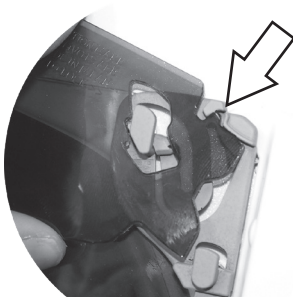
③サンバイザーの端部を持って、ベースから取り外します。反対側も同じ手順で作業を行ってください。



## サンバイザーの付け方

①サンバイザーの取り付けは全開位置で行います。ベースの凹みに、サンバイザーの突起部をあてがいます。

②ピボットカバーの左右を確認し、ベース側の突起とカバーの穴とを合致させ、カバーを矢印の方向にスライドさせます。止まった位置でカバーはロックされます。



L・左用



R・右用

カバーのロック状態を確認してからヘルメットをご使用ください。



## お客様へのお知らせ

- ▲ピンロック120は別途お買い求めください。
- ▲当製品とサングラスを併用するのはお止めください。
- ▲傷などで見づらくなった場合は新しい製品をご購入ください。
- ▲夜間やトンネル内、曇りや雨の日はサンバイザーを上げてご使用ください。
- ▲ピンロック120を取り付ける時は、予めサンバイザーを外してから行なってください。

## シールド及びサンバイザーについて

シールド及びサンバイザーには、その表面硬度を高めるハードコート加工が施されています。しかし、硬い布で拭くなど取り扱いによっては傷が付くおそれがある消耗品です。傷によって見づらく感じるようになった場合は、新しい製品をご購入ください。尚、サンバイザーの上下動の際やシールドへの接触によってサンバイザーやシールドの表面に擦り傷が生じるおそれがあります。予めご了承ください。

## ミラーコーティングされたサンバイザーについて

1. 夜間やトンネル内ではサンバイザーを上げてご使用ください。
2. シンナー、ガソリン、ガラスクリーナーなどが付着すると素材が劣化し、衝撃を受けた際にそこをきっかけに破損することがありますので絶対に使用しないでください。
3. シールド表面に薄いコーティングが施してあります。使用条件によってはコーティングの剥離や変色をおこし視界を妨げます。異常が見られた場合は使用せず、新しいサンバイザーと交換してください。
4. 汚れた場合には、汚れ等を付着させたまま拭くと傷等の原因となります。中性洗剤を薄めた液で洗浄し、真水でよく濯ぎ、その後柔らかな布で、擦らず叩くようにしてに水分を取り除き、自然乾燥させてください。また、雨天時に長時間使用すると、ミラーコーティング層が軟化し、剥がれることがありますのでご注意ください。

## ピンロック120のご案内

別売りオプションパーツ

ピンロック120は、シールド内面に貼り付けることで家屋用ペアガラス同様の二重構造の曇り止効果を付加するオプションパーツです。ピンロック120はECE R22-05規格テストにおいて、従来製品と比べて防曇性能が約1.7倍※向上しています。※製造メーカーの提供データによる参考値

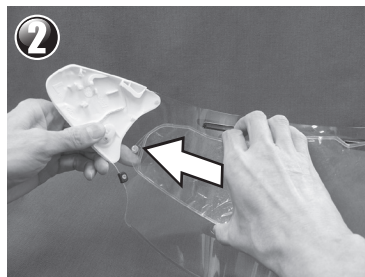
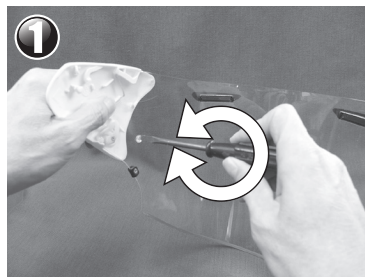
### ピンロック120の付け方

①下図の点線で描かれているのはピン自体の回転軸です。そこから少しずれた位置にある黒い丸がピンロック120がセットされる偏心軸となり、回すことでその軸の位置は変化します。シールド内側からマイナスドライバーでピンロックピンを回し、下図のようなポジションにします。



②シールド左側のピンロックピンに、ピンロック120の端のU字型の切り欠きをはめ込んでください。

ピンロック120は、ブローベンチを避ける窪みがある方が上になります。そして、シリコンゴムの縁取りをシールド側に向けて取り付けます。



③ピンロック120の右側をはめ込む際は、シールドを少し広げながら行います。  
そして、ピンロック120の端を下に湾曲させながらピンロックピンにはめ込みます。

※シールドは極端に広げないでください。



上から見たシールド



シールドを広げる



ピンに差し込む

④シールド側のシリコンゴムが満遍なくシールドに接するように、ピンロック120の位置を上下に調整します。



上が開いている

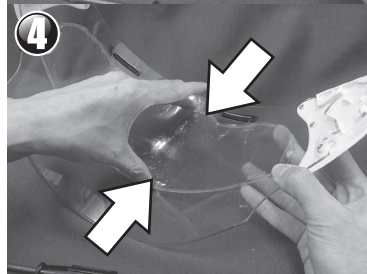
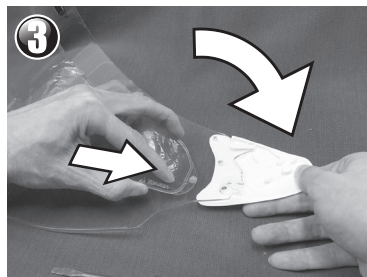


下が開いている



丁度良い

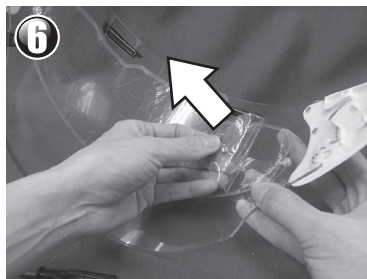
⑤ピンロックピンは偏心しているので、回すことで軸の位置が変化します。ピンロック120のシリコンゴムの全周がシールド面に密着するように、シールド左右のピンロックピンをマイナスドライバーで回します。※特にがたつき等が見られない場合は次の説明⑥へ進みます。



⑥最後に、ピンロック120の保護フィルムを剥がしてください。

そしてこの後、シールドをヘルメットに取り付けますが、ヘルメットのサイズによって取り付け際にシールドが広がる（またはすぼんだ状態になる）場合があります。ピンロック120の浮きや隙間、がたつき等ないかを確認してください。

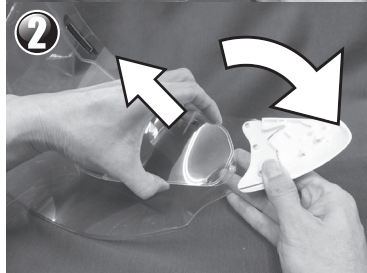
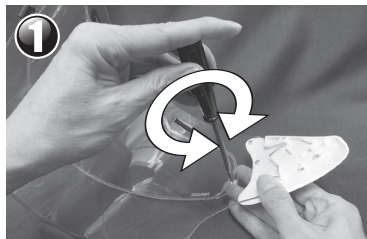
シールドとピンロック120との間に隙間が生じると、曇り止め効果が薄れてしまいますので、ご注意ください。



## ピンロック120の外し方

①ピンロック120を保持している、シールド左右のピンロックピンをマイナスドライバーで回して軸を偏心させてピンロック120を緩めます。

②取り付ける時と同様にシールドを少し広げながら、ピンロック120の端をつかんで取り外します。



ピンロック120の表面には触れないで！



ピンロック120の表面は非常にデリケートなので、取り扱いにはご注意ください。

ピンロック120は、含有する水分量によって伸縮します。雨天使用後や保管状況によっては取り付けピンが緩んでピンロック120がガタガタと動いてしまう場合があります。ピンの偏心機能は、この伸縮に対応するものですが、ピンロック120の位置決めピンが伸縮によって緩んだ（離れた）状態のままで使用すると、転倒などで衝撃を受けた際にピンロック120がシールドより外れるおそれがあります。ご使用前には必ずピンロック120を確認し、ガタつきの無い状態でご使用ください。



シールド内に水が浸入した場合は、ピンロック120をシールドから一旦外し、充分に自然乾燥させてから取り付けてください。また、雨天時には水の浸入を防ぐため、できる限りシールドを閉めてご使用ください。ただし、視界の確保が必要な状況では、この限りではありません。

ピンロック120を取り付けたシールドは二重構造という性質上、夜間走行時に対向車のライト等が二重に見える場合があります。尚、二重構造シールドは高い防曇効果を発揮しますが、気象条件や湿度等により防曇効果が著しく低下する場合があります。この事を充分にご理解頂き、ご使用ください。



ピンが緩んでピンロック120がガタガタと動いたら、左右のピンを回転（偏心）させ、ピンロック120の緑のシリコンゴムがシールド内面に密着するように再度調整します。尚、調整範囲を超えてしまう場合は使用限界とご理解頂き、新しいピンロック120にお買い換えください。シールドを長期間使用しない場合は、ピンを緩めておくことでピンロック120への負担（応力）を軽減できます。

## 付録①シールドカラーの選び方



晴天

晴れた日の日中は、陽射しや路面の照返しの眩しさを軽減するスモークシールドがお勧めです。

※スモークシールドは、周辺が明るい状況時に限りご使用ください。



曇り、雨

曇りや雨天の走行には、クリアーシールドがお勧めです。

※アルコール成分を含む撥水剤（自動車窓用）はシールド素材を侵し、破損させるおそれがありますので絶対に塗らないでください。



夕方、夜

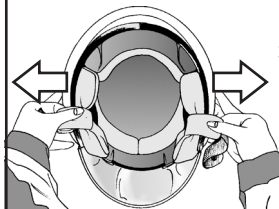
夕方や夜にはクリアーシールドをお勧めします。ツーリングなどで走行が夜間にも及ぶ場合は、日没前に安全な場所で停車して、昼用シールドからクリアーシールドに交換してください。



全天候

朝→昼→夜、晴れ→曇り→雨と、走行条件が日々刻々と変化する通勤通学、配達業のライダーにはライトスモークやセミスモークシールドがお勧めです。

## 付録②ヘルメットのかぶり方



あご紐をしっかり持って左右に広げると間口が広がり、ヘルメットがかぶりやすくなります。

※ヘルメットを脱ぐときも同様に、あご紐を左右に広げると脱ぎやすくなります。



ヘルメットは真上からではなく、額から先にかぶります。このようにする事で前髪が目の前に垂れ下がりにくくなり、同時に耳たぶの折れも防げます。



天井パッドが頭に触れるまであご紐を下に引っ張り、ヘルメットの位置を整えます。最後に、あご紐を締めればヘルメットの装着完了です。

## カーボンコンポジットヘルメット使用上のご注意

当ヘルメットに使用されているカーボン繊維は、その性質上よく電気を伝えます。インターカム等を取り付ける場合は、絶縁不良や断線による漏電にご注意ください。

当ヘルメットには耐UVクリアーがコートされていますが、直射日光下に長時間放置すると部分的な日焼け（黄変）が生じる場合があります。ヘルメットを使用しない時にはヘルメット袋等に入れて直射日光が当たらない場所に保管してください。



## 株式会社 アライヘルメット

☎330-0841 埼玉県さいたま市大宮区東町2-12 ☎048-641-3825

ヘルメットに関するご質問ご相談は品質管理課まで。

☎048-645-3661 受付時間：午前9時～午後5時（土曜・日曜、祝日を除く）

### SGマーク被害者救済制度

SGマークは、製品安全協会が定めるSG基準に適合するものとして認証された製品に表示される安全・安心マークです。SGマーク付きヘルメットの欠陥により人身事故が発生したときは賠償措置が講じられます。ただし、プロオートバイレースやサーカス等の特殊な使い方をしている場合や、シールド等の付属品の欠陥による事故の場合の負傷等は、賠償の対象になりません。また、SGマークには、ヘルメットの耐久性等を考慮して、「購入後3年間」との有効期間を定めています。3年以内であっても、一度でも衝撃を受けたヘルメットや、改造されたヘルメットは外観に異常が無くても性能が低下していますので絶対に使用しないでください。

#### 一般財団法人製品安全協会

〒110-0012 東京都台東区竜泉2-20-2 ミツウロコ三ノ輪2階 電話番号03-5808-3300（代表）

消費生活用製品PLセンター 電話番号03-5808-3303

受付時間9：30～12：00 13：00～17：30（土日祝は休み）



180320-j8  
Printed in Japan



FUKUYAMA PRINTING  
福山印刷株式会社